

シニア活動支援センターの浴室の現状及び今後の方向性について

1 現状について

シニア活動支援センターは、平成3年に老人福祉センターA型と在宅サービスセンターの複合施設として開館し、33年が経過しています。

浴室は、令和5年2月から修繕を行い利用していましたが、現在不具合により利用を停止しています。

(1) 浴室の利用停止状況

ア 女性浴室の浴槽タイルの剥がれと男性の浴槽のタイルの亀裂

【停止期間：令和5年2月9日～令和5年4月30日】

イ 給湯配管の水漏れ

【停止期間：令和5年5月25日～令和5年7月12日】

ウ 中央監視盤のエラー表示のため点検を行い、給湯配管や浴槽からの水漏れ、シャワーの温度調整に不具合があることが判明

【停止期間：令和5年10月6日から現在】

(2) 浴室利用者の状況

令和5年度の延べ浴室利用者数は4,407人、稼働日数75日、1日平均59人
居住地は青戸・立石地区のほか、高砂・四つ木・奥戸地区が多い。

2 浴室の取扱いについて

(1) 老人福祉センターA型の浴室は高齢者の憩いや交流、健康増進を目的に設置していますが、交流や健康増進等に関する他の事業・サービス等も充実化が図られています。

(2) 今後の後期高齢者人口の増加傾向を見据えると、これまでの取組に加えフレイル予防等の取組をより一層、強化していく必要があります。

(3) 時代の変化の中で老人福祉センターA型の浴室の役割が少なくなっていることや、今後必要性の高い事業に重点的に取り組む必要があることから、浴室は廃止します。

3 今後について

(1) 栄養状態の改善、適切な運動習慣、社会参加の推進等の高齢者のフレイル予防など各種事業の拡充を検討していきます。

(2) 高齢者の憩いの場の提供や交流の促進を図るため、浴室の空きスペースについては、区民がくつろげる空間などへの転用を検討していきます。

4 参考

(1) 浴槽及び配管からの水漏れを止める場合の概算工事費 約66,000千円

(2) 年間の水道光熱費 約4,600千円